

De補語構文の解釈と有界性

徐, 佩伶
淡江大学

<https://doi.org/10.15017/1655011>

出版情報：九州大学言語学論集. 36, pp.147-161, 2016. 九州大学大学院人文科学研究院言語学研究室
バージョン：
権利関係：



De 補語構文の解釈と有界性

徐佩伶

(淡江大学)

peilin35@hotmail.com

キーワード：De 補語構文、様態解釈、結果解釈、構造、有界性

1. はじめに

本稿では、中国語の *de* 補語構文（以下「V-*de* XP」で表す）の構造と解釈を有界性（Boundedness）の観点から再考察し、*de* XP（*de* 補語構文における *de* phrase を *de* XP で表す）が持つ有界性が *de* 補語構文の解釈と関連することを示す。

De 補語構文には様態解釈（manner）と結果解釈（resultative）/程度解釈（extent/degree）がある（Huang 1988, Li 1990, 相原 1991, Sybesma 1999, Cheng 2007）。具体例を(1)に示す¹。

(1) a. 様態解釈

Wo pao-de hen kuai. (Huang 1988 (1))

私 走る-DE 非常に 速い

‘私は走るのが速い/私は速く走れる。’

b. 結果解釈

Tamen tiao-de hen lei. (Huang 1988 (2))

彼ら 躍る-DE 非常に 疲れる

‘彼らが躍り疲れた。’

¹ 先行研究では、(1)に示された解釈を記述するには様々な用語が見られる。例えば、Huang (1988)は、(1a)のような「様態」を表す「得 XP」を叙述補語構文 (Descriptive Complement Construction) と呼び、(1b)を「結果補語構文」 (Resultative complement construction)と呼んでいる。Li (1990)は Huang (1988)に類似した用語を用いて、(1a)を Descriptive expression と呼び、(1b)を Resultative expression と記述している。Sybesma (1999)は、構文より解釈の違いを注目し、(1a)を resultative reading と呼び、(1c)を degree reading と呼ぶ。

c. 程度解釈

Zhangsan leng-de fadou. (Sybems 1999:18 (24a))

Zhangsan 寒い-DE 震える

‘Zhangsan が寒すぎて体が震えている。’

(1a)は、*de* XP の XP *hen kuai* “非常に速い”が *pao* “走る”という動作の様態を叙述する「様態解釈」であり、(1b)は、XP の *hen lei* ‘非常に疲れた’が *tiao* “躍る”という動作が行われた結果の状態を表すという「結果解釈」である。(1c)では、XP *fadou* “震える”は、「寒すぎて体が震える」という「結果解釈」と「身体が震えるほど寒い」という「程度解釈」が可能である。本稿では「程度解釈」が「結果解釈」から派生したものと考え、以下「結果解釈」と「様態解釈」の相違を中心に論じていく。

結論を先取りすれば、*de* 補語構文に現れる「様態解釈」と「結果/程度解釈」は *de* XP の有界性に関係し、その有界性が *de* XP 内における主語 NP の性質に関わっていると主張する。次節では *de* 補語構文に関する基本事実、*de* 補語構文の主節の述語のタイプと、「様態解釈」と「結果解釈」の間に見られる統語的非対称性を記述し、3 節では先行研究の主張と問題点を整理する。4 節では本稿の主張と分析であり、5 節では本稿のまとめである。

2. 基本事実

De 補語構文では、主節の述語が限界述語でも非限界述語でも「様態解釈」と「結果解釈」両方可能である。具体例を(2)と(3)に示す。

(2) 限界述語：*gai* ‘建てる’

a. Fangzi gai-de hen kuai. (様態解釈)

家 建てる-DE 非常に すばやい

‘家はすばやく建てられた’

b. Fangzi gai-de hen wanmei. (結果解釈)

家 建てる-DE 非常に パーフェクト

‘家は申し分のないほど綺麗に建てられた。’

(3) 非限界述語：*tiao* ‘踊る’

- a. Ta wu tiao-de hen youya. (様態解釈)
 彼女 ダンス 踊る-DE 非常に エレガント
 ‘彼女はエレガントに踊っていた。’
- b. Ta wu tiao-de quanshen suantong. (結果解釈)
 彼女 ダンス 踊る-DE 全身 疲れる
 ‘彼女は踊って体全体が疲れた。’

(2)では主節の述語が限界述語の *gai* ‘建てる’であり、(3)では主節の述語が非限界述語 *tiao* ‘踊る’である。いずれの述語場合でも、*de* XP が様態解釈と結果解釈を表すことができる。この事実から、*de* 補語構文の解釈は主節の述語のタイプによって制限されないことがわかる。

次に、*de* 補語構文では、*de* XP の中に主語 NP (*empty pronoun* を含む) が許されるかどうかという点において様態解釈の場合と結果解釈の場合が異なる。(4)では、XP の中に *pro* や NP (馬) が主語として現れる場合、文が「(*pro*/馬が) 走っているスピードが速い」という「様態解釈」では許されない。

- (4) a. **Wo_i qi ma qi-de [pro_i hen kuai].* (様態)
 私 乗る 馬 乗る-DE 非常に 速い
 ‘私は馬に乗って(私が) とても速く走れた。’
- b. **Wo_i qi ma qi-de [ma hen kuai].* (様態)
 私 乗る 馬 乗る-DE 馬 非常に 速い
 ‘私は馬に乗って、馬が速く走れた。’

一方、(5)では、XP 内に *pro* や NP (馬) が主語として現れ、文が「(走った結果) (*pro*/馬が) とても疲れた」という「結果解釈」では許される。

- (5) a. *Wo_i qi ma qi-de [pro_i hen lei].* (結果)
 私 乗る 馬 乗る-DE 非常に 疲れる
 ‘私は馬に乗って走っていたら(私が) とても疲れた。’
- b. *Wo_i qi ma_i qi-de [ma_i hen lei].* (結果)
 私 乗る 馬 乗る-DE 馬 非常に 疲れる
 ‘私は馬に乗って走っていたら、馬がとても疲れた。’

(4)と(5)の事実から、*de* 補語構文は「結果解釈」の場合のみ *de* XP の中に主語 NP が許されるということが分かる。この事実を(6)にまとめる。

- (6) a. 結果解釈の「*de* XP」
 [V *de* [_{XP} (NP/*pro*) X]] (*NP/pro* は X の意味的な主語である)
 b. 様態解釈の「*de* XP」
 [V *de* [_{XP} X]]

最後に、*de* 補語構文の *de* が *extension* を表す *dao* ‘至る’と交替できるかどうかである。「結果解釈」を表す *de* 補語構文では「*de*・*dao*」交替ができるが、「様態解釈」を表す場合は「*de*・*dao*」交替ができない。具体例をそれぞれ(7)と(8)に示す。

- (7) 「結果解釈」の場合における「*de*・*dao*」交替（可能）
 a. Ta he jiu he-*de* [tou zai teng le].
 彼 飲む 酒 飲む-DE 頭 PRES 痛い ASP
 ‘彼が酒を飲みすぎて、頭がガンガンしている。（酒の量を控えずに飲んでいたら頭が痛くなっている）’
 b. Ta he jiu he-*dao* [tou zai teng le].
 彼 飲む 酒 飲む-DAO 頭 PRES 痛い ASP
 ‘彼は酒を飲みすぎて、頭がガンガンしている。（頭がガンガンする程度まで酒を飲んでいた。）’
 (8) 「様態解釈」の場合における「*de*・*dao*」交替（不可）
 a. Ta he jiu he-*de* [hen kuai].
 彼 飲む 酒 飲む-DE 非常に 速い
 ‘彼が酒を飲むスピードが速い。’
 b. *Ta he jiu he-*dao* [hen kuai].
 彼 飲む 酒 飲む-DAO 非常に 速い

以上の事実を考慮し、以下「結果解釈」を表す *de* 補語構文と「様態解釈」を表す *de* 補語構文の相違を考えていく。次節ではまず三つの先行研究を挙げ、それぞれの問題点を議論した上で、分析を行う。

3. 先行研究と問題点

3.1. Huang (1988)

Huang (1988)では、「様態解釈」の *de* phrase と「結果解釈」の *de* phrase について同じ構造を仮定している。その構造を(9)に示す。

- (9) [s NP [VP V-*de* [AP/S' XP]]

ところが、Huang (1988)では(1)に示された異なる解釈の派生に対して論じられていない。

3.2. Li (1990)

Li (1990)では、descriptive expression (様態解釈の *de* XP) と resultative expression (結果解釈の *de* XP) は異なる構造を持つと主張している。そのもっとも大きな違いは descriptive expression の場合は XP が AP であり、resultative expression の場合は XP が節である。Descriptive expression の構造と resultative expression の構造を(10)に示す。

- (10) a. Descriptive Expression
i. NP X [V *de* AP] (V は main predicate)
ii. NP X V *de* [A- not -A]
b. Resultative Expression
[NP1 [X [V1 *de* [(NP2) VP2]]]]

ところが、このような XP 範疇の相違は descriptive expression と resultative expression を分ける基準になれない。その理由として、descriptive expression の場合でも、AP 以外の範疇が可能であるということである。それは否定 NegP の場合である(11b)。

- (11) a. Zhe-zhi laohu pao-de kuai
この-匹 虎 走る-DE 速い
‘この虎が走るのが速い。’
b. Zhe-zhi laohu pao-de bu kuai
この-匹 虎 走る-DE ない 速い
‘この虎が走るのが速くない。’
c. [NP X [V *de* [NegP Neg [AP]]]]]

また(12)に示した例のように、程度を表す副詞 *hen* ‘非常に’は AP ではなく、副詞である。

- (12) Jintian re-de hen.
今日 暑い-DE 非常に
‘今日非常に暑かった’

(11c)と(12)が示しているように、AP より大きい構造である NegP と副詞でも様態を表すことができる。この事実から、*descriptive expression* と *resultative expression* の相違を単に XP の範疇から説明することができないことがわかる。

3.3. Sybesma (1999)

Sybesma (1999)では、*de* 補語構文が表す「結果解釈」と「程度解釈」が *degree structure*、すなわち(13)に示す ExtP (Extension Phrase) の構造を持つと主張し、*de* は挿入規則によって *degree structure* に入ると仮定している。

- (13) Degree structure
NP [_{VP} V/A [_{ExtP} Ext⁰ [_{SC} NP XP]]]

Sybesma (1999)によると、主節の述語は *unbounded temporal extension* (*open range*)を示し、ExtP は *open range* を閉じる機能を持つということである。主節の述語は *temporal extension* として捉えられた場合、ExtP とその補部は「主節 V」の結果状態を表すことになる。

ところが、この ExtP の分析は「結果解釈」と「程度解釈」を持つ *de* 補語構文を説明できるが、「様態解釈」を表す場合について触れていない。本稿では、Sybesma (1999)の ExtP の分析を踏まえ、「様態解釈」を持つ *de* XP の構造を論じる。

4. 本稿の主張と分析

本稿では、*de* 補語構文が持つ二つの解釈が *de* XP の有界性 (*boundedness*) に関係すると主張する。Jackendoff (1990:30)により、文の有界性が文中にある各語彙の情報 (*feature*) に基づいたものであり、

例えば、[+/-telic]動詞、アスペクト、テンス、名詞句のタイプ、単複形、前置詞句のタイプなどが文の有界性に関係する。本稿では、*de* XP の中に主語となる NP (individual) が投射されることによって XP が bounded になると考え、*de* XP が[+bounded]の場合は「結果解釈」となり、*de* XP が[-bounded]の場合は「様態解釈」となるということである。

4.1. XP 内の主語と Ext⁰

Li (1990)では様態・結果といった二つの解釈は *de* XP の XP の範疇に関わっていると主張されたが、実際に XP の範疇より、XP 内に主語があるかどうかが重要である。

「様態解釈」は「結果解釈」の場合と異なり、*de* XP の中に主語たるような NP が現れないという事実を 2 節で見た。(14a)における「結果解釈」の場合は、XP 内に NP *ma* ‘馬’が主語として現れうるのに対し、(14b)における「様態解釈」の場合では、XP 内に NP *ma* ‘馬’が主語として現れると、文の容認度が下がる。

- (14) a. Wo qi-de [ma hen lei]. (結果)
私 乗る-DE 馬 非常に 疲れる
‘私は馬に乗って走っていたら、馬がとても疲れた。’
b. *Wo qi-de [ma hen kuai]. (様態)
私 乗る-DE 馬 非常に 速い
‘私は馬に乗って、馬が速く走れた。’

さらに、結果解釈の *de* XP には、主語たるようなもの（音声的に実現されるものとされないものを含み）がなくてはならない。(15)では、XP 内の意味的主語は(15a)において *yanjing* ‘目’であり、(15c)では主節の *yanjing* と co-index する *pro* である。いずれの文でも容認されるが、(15b)が示すように、XP 内に意味的主語がないと文が容認できない。

- (15) a. Ta kan shu kan-de [yanjing hen hong].
彼 読む 本 読む-DE 目 非常に 赤い
‘彼が本を読んで、目が赤くなっている。’
b. *Ta kan shu kan-de [hen hong]
彼 読む 本 読む-DE 非常に 赤い

- c. Ta yanjing_i kan shu kan-de [*pro_i* hen hong]
 彼 目 読む 本 読む-DE 非常に 赤い
 ‘彼の目が本を読んでいることで赤くなっている。’

De XP 内に主語の有無が *de* XP が表す「結果解釈」、「様態解釈」とどのような関係を持つのであろうか。ここで、Sybesma (1999)の仮説を踏まえ、Degree Structure を形成する条件として(16)に示すような制約を仮定する。

(16) 機能範疇 Ext⁰は主述関係が成り立つ場合のみ導入される。

(16)を仮定すると、「結果解釈」を表す *de* 補語構文と「様態解釈」を表す *de* 補語構文の構造を(17)のようになる。

- (17) a. 結果解釈を表す場合
 NP [_{VP} V/A *de* [_{ExtP} Ext⁰ [_{SC} NP XP]]]
 b. 様態解釈を表す場合
 NP [_{VP} V/A *de* [_{XP} XP]]
 (NP [_{VP} V/A *de* [_{ExtP} Ext⁰ [_{SC} NP XP]]]) (Ext⁰とNPがない)

(17a)では、SCの中に主述関係が成り立ち、(16)により機能範疇の Ext⁰が導入され、ExtPを投射する。Sybesma (1999)に従い、ExtPが unbounded temporal extension を閉じる機能を持つと仮定し、述語の補語となる *de* phrase がその述語の結果状態として捉えられる。そのため、(17a)における *de* phrase は「結果解釈」となる。一方、(17b)では、SCの中に主述関係がないため、(16)により機能範疇の Ext⁰が導入されず、ExtPを投射することもできない。そうすると、主節の述語が unbounded temporal extension (open range) のままであり、述語の補語である *de* phrase が述語の「結果状態」として捉えられない。Unbounded temporal extension の述語が取る補語 (*de* phrase) がその述語の「今持続している状態」を叙述することになり、いわゆる「様態解釈」となる。

以上の分析では、*de* XP 内の主述関係 (subject-predicate relation) の成り立ちが Ext⁰ の導入に関係すると仮定し、Ext⁰が ExtP を投射し、主節の述語の unbounded temporal extension を閉じる機能があることと仮定した。もし ExpP を仮定しなければ、なぜ *de* XP 内に主語があることで、*de* XP

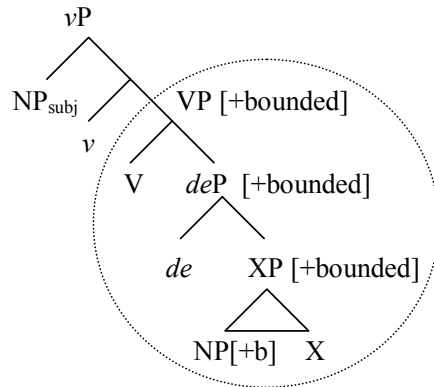
が主節の述語の結果状態として解釈されるのかということが疑問になる。同様に、なぜ *de* XP 内に主語がないと、*de* XP が主節の述語の様態として解釈されるのかという問題もある。その問題に関して、次のように考えたい。XP の中に主語 NP がある場合は、その主語が必ず *individual* であるということに注目したい。(18a)では、結果解釈の *de* XP では *wanmei* ‘パーフェクト’の主語 *pro* が *fangzi* と同一指示し、*individual* である。それに対する(18b)では、*kuai* ‘速い’の意味的主語があるとしたら音声化しない「速度」であり、*individual* ではない。

- (18) a. *Fangzi_i gai-de [pro_i hen wanmei]* (結果解釈)
 家 建てる-DE 非常に パーフェクト
 ‘家は申し分のないほど綺麗に建てられた。’
 b. *Fangzi gai-de [(speed) hen kuai]* (様態解釈)
 家 建てる-DE 非常に すばやい
 ‘家はすばやく建てられた’

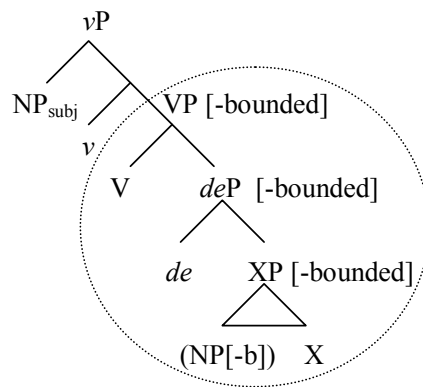
Jackendoff に従い、*individual* が[+bounded]であると仮定し、XP 内の述語がその[+bounded]の主語 NP を取ると、XP も[+bounded]になる。XP の中に主語 NP がない場合、あるいは主語 NP が *individual* ではない場合は、XP が *unbounded* のままとなる。さらに、*de* XP がもつ[+bounded]、[-bounded]のいずれかの素性が *de* XP と併合する述語に *transfer* する。主節の述語が *de* XP から[+bounded]素性が継承され、動詞句全体が[+bounded]になる。これは Sybesma (1999)が主張した *temporal extension* として捉える述語と同じになり、述語の補語となる *de* XP が述語の「結果状態」として解釈される。同様に、主節の述語が[-bounded]であれば、主節の述語が *de* XP から[-bounded]素性が継承され、動詞句が[-bounded]になり、*de* XP が述語の「様態」として解釈される。

この分析から、「結果解釈」と「様態解釈」を表す *de* 補語構文における *de* が同じ *lexicon item* であり、*de* 補語構文も構造的に同じものであると結論づけられる。*De* XP 内に主語 NP の性質が *de* XP の有界性を決める。[+bounded]の場合は「結果解釈」となり、[-bounded]の場合は「様態解釈」となる。それぞれの構造を(19a, b)に示す。

(19) a. 「結果解釈」 の場合の構造



b. 「様態解釈」 の場合の構造



4.2. Stage-level 述語 vs. Individual level 述語

Kratzer (1995)により、述語には意味的に個体の一時的な状態（時間的な boundary がある）について言う stage-level 述語と、個体の性質（時間的な boundary がない） individual-level 述語がある²。実際に Stage-level 述

² Kratzer (1995)では、Stage-level predicate はある個体の一時的な状態（時間的な boundary がある）を指すのに対し、Individual-level は個体の性質（時間的な boundary がない）を指す。具体例は(i) (ii) に示す。

(i) Firemen are altruistic. (individual-level)
消防員が利他主義的である。

(ii) Firemen are available. (stage-level)
消防員が(今)手が空いている。

Kratzer (1995)により、stage-level predicate と individual-level predicate の違いは文法現象にも見られる。例えば、存在を表す there 構文である。

(iii) a. There are firemen available. (Kratzer 1995:125 (1))

語と individual-level 述語による違いも、結果を表す *de* XP と様態を表す *de* XP にも見られる。

「結果解釈」の *de* XP は述語の結果状態を表し、stage-level 述語と類似し、一時的な状態のことしか描写できない。一方、「様態述語」の *de* XP は述語の非結果状態を描写するため、individual-level 述語として使うことができる。そこで、主節主語の属性、性質を描写する述語は、stage-level ではなく、individual-level である。*tiansheng* ‘生まれつきで’という副詞は、主語の属性を叙述する表現であり、一時的な状態を表す「結果解釈」の *de* 補語構文と共起できない。具体例を(20a)に示す。そして、時間的な boundary がない「様態解釈」の *de* 補語構文では *tiansheng* ‘生まれつきで’が共起でき、(20b)が示すように、文が容認できる。

- (20) a. Ta (**tiansheng*) he jiu he-de [tou fahun]. (Stage-level)
 彼 生まれつきで 飲む 酒 飲む-DE 頭 ふらふらする
 ‘彼が生まれつきで酒を飲みすぎて頭がふらふらする。’
 b. Ta (*tiansheng*) he jiu he-de [hen kuai]. (Individual-level)
 彼 生まれつきで 飲む 酒 飲む-DE 非常に 速い
 ‘彼は生まれつきで酒飲むスピードが速い。’

従って、「様態解釈」を表す *de* XP は主節の主語に対して、individual-level の述語の性質を持ち、時間的な boundary を持たない ([–bounded])と考えられる。同様に「結果解釈」を表す *de* XP の場合は、時間的な boundary ([+bounded]) を持っており、stage-level 述語と似た性質を持っていると言える。

4.3. *De*・*Dao* 交替

Dao-XP “XP に至るまで”は語彙的に extension を表し、それを補語に取る述語は temporal extension として捉えられ、[+bounded]である。具体例(21)に示す。この場合の *dao* は「結果解釈」を表す *de*-XP と交替できる(22)。

b. *There are firemen altruistic.
 Individual-level predicate は[atelic]であるため、一時的な存在を表す *there* 構文と共起できない。

- (21) a. Ta he jiu he-*dao* [tou zai teng le].
 彼 飲む 酒 飲む-DAO 頭 PRES 痛い ASP
 ‘彼が頭が痛くなるまで酒を飲み続けた。’
- b. Ta qi ma qi-*dao* [tui suan]
 彼 乗る 馬 乗る-DAO 足 疲れる
 ‘彼が足が疲れるまで乗馬していた。’
- (22) a. Ta he jiu he-*de* [tou zai teng le].
 彼 飲む 酒 飲む-DE 頭 PRES 痛い ASP
 ‘彼が酒をあまりにも飲みすぎて、今頭が痛くなっている。’
- b. Ta qi ma qi-*de* [tui (hen) suan]
 彼 乗る 馬 乗る-DE 足 (非常に) 疲れる
 ‘彼が乗馬していたとことで、足が今疲れている。’

ただし、*de* と *dao* が交替できるといっても意味が異なる部分がある。「V-*dao* XP」は、XP という状態になるまで動作 V が続くという意味であり、「V-*de* XP」は、動作 V が行われたことで、結果的に XP という状態になるという点で一致している。つまり、*de*・*dao* 交替が許されるのは、*de* XP が *dao* XP と同じように[+bounded]の場合である。すなわち、「結果解釈」を表す *de* XP の場合のみである。そのように考えると、2 節で挙げられた「様態解釈」の *de* XP が *dao* と交替できないという事実も説明がつく。*De*・*dao* 交替ができない例を(23)に再掲する。「様態解釈」を表す *de* XP が[-bounded]であり、[+bounded]の *dao* と意味的に mismatch になるため、文が容認できなくなるのである。

- (23) a. Ta he jiu he-*de* [hen kuai].
 彼 飲む 酒 飲む-DE 非常に 速い
 ‘彼が酒を飲むスピードが速い。’
- b. *Ta he jiu he-*dao* [hen kuai].
 彼 飲む 酒 飲む-DAO 非常に 速い

この節で述べた *de*・*dao* 交替の現象は、「結果解釈」を表す *de* XP が bounded であり、「様態解釈」を表す *de* XP が unbounded であるという仮定を裏付けられる。

5. まとめ

本稿では、*de* 補語構文の解釈と構造について、有界性 (Boundedness) の観点から再考察した。*De* 補語構文 (「V-*de* XP」) には「様態解釈」と「結果/程度解釈」があり、その二つの解釈は *de* XP が bounded か unbounded かによって決まる。*De* XP の有界性が *de* XP 内にある主述関係の有無に関わることを議論し (主語位置を投射するかないかは XP の語彙情報によって決まる)、主語 NP が individual である場合は [+bounded] であり、XP 内の述語がその [+bounded] の主語 NP を取ると、XP も [+bounded] になる。XP の中に主語 NP がない場合、あるいは主語 NP が individual ではない場合は、XP が unbounded のままとなる。また、Sybesma (1999) に従い、「V *de* XP」における V はデフォルトでは temporally unbounded process (時間的に end point がない) であり、*de* XP は V の boundedness を決める機能があると仮定する。*De* XP がもつ素性は VP に transfer し、XP が [+bounded] である場合、主節の述語も [+bounded] になり、XP が [-bounded] である場合、主節の述語も [-bounded] になる。主節の述語が [+bounded] である場合、*de* XP が述語の「結果状態」として解釈され、主節の述語が [-bounded] である場合、*de* XP が述語の「様態」として解釈される。このように、*de* 補語構文の解釈の相違は有界性の概念によって捉えられる。

参考文献

- Cheng, L.-S. Lisa (2007) Verb copying in Mandarin Chinese. In Norbert Corver and Jairo Nunes (eds.) *The Copy Theory of Movement/Linguistics today no. 107*: 151-174. Amsterdam: John Benjamins Publishers.
- Jackendoff, Ray S. (1990) *Semantics Structure*. The MIT Press.
- Kratzer, Angelica. 1995. Stage-level/individual-level predicates. In *The generic book*, ed. G.N. Carlson and F.J. Pelletier, 125-175. University of Chicago Press.
- Huang, C.-T. James (1988) Wo Pao De Kuai and Chinese Phrase Structure, *Language* 64, 274-311
- Huang, C.-T. James (1997) On lexical structure and syntactic projection. *Chinese Language and Linguistics* 3: 45-89. Taipei: Academia Sinica
- Huang, C.-T. James, Li, Y.-H. Audrey, Li, Yafei (2008) *The Syntax of Chinese*.

Cambridge University Press.

- Li, Yafei (1993) Structural Head and Aspectuality, *Language* 69, 480-504
- Li, Yafei (1999) Cross-Componential Causativity, *Natural Language and Linguistic Theory* 17, 445-479
- Li, Yafei (2005) *X⁰: A Theory of the Morphology-Syntax Interface*. The MIT press.
- Li, Yen-Hui Audrey (1990) *Order and Constituency in Mandarin Chinese*. Kluwer Academic Publishers.
- Sybesma, Rint (1999) *The Mandarin VP*. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.

The Interpretations of *De*-phrase and Boundedness

HSU, Pei-Ling
(Tamkang University)

In this paper, I focused on sentences with *de*-phrase in Mandarin Chinese, which have been discussed in the literature (Huang 1988, Li 1990, Aihara 1991, Sybesma 1999, Cheng 2007). It is well-known that *de*-phrase denotes manner reading and resultative reading. It is also claimed in previous studies that *de*-phrases with two different readings are analyzed as a result of the different structures with different lexical items (Li 1990, Cheng 2007). In this paper, I suggest that there is only one lexical item *de* and the difference between resultative reading and manner reading depends on the boundedness of XP that *de* selects. Moreover, I also claim that the subject NP in *de*-phrase plays a crucial role to determine the boundedness of *de*-phrase.